

かかりつけ医・家庭医のための
**見逃してはいけないメンタルヘルスへのプライマリ・ケア的アプローチ
病態生理から迫る腹痛へのプライマリ・ケア的アプローチ**

日時：平成23年6月12日（日）10：00～12：00 13：30～15：30

講師：竹村 洋典 三重大学大学院教授 場所：機械振興会館

6月12日、東京都港区の機械振興会館において三重大学大学院教授の竹村洋典先生を講師に迎え、MHS臨床セミナーでは初めての試みである1日に達った2つのテーマでのセミナーを開催いたしました。午前中は「見逃してはいけないメンタルヘルスへのプライマリ・ケア的アプローチ」午後は「病態生理から迫る腹痛へのプライマリ・ケア的アプローチ」がテーマでした。

自殺者の約半数は1か月以内に医療機関を受診している！

竹村先生はプライマリ・ケア医がある程度の精神疾患系の知識を有することが自殺増加対策に有効だと説明されました。

現在のわが国では「うつ」は20人に1人の病気となっております。働き盛りの20～40代男性の死因のトップは自殺であり交通事故の2倍に上ります。

ところが「うつ病」の患者さんが最初に受診するのは精神科や神経内科ではなく内科が60%とのデータがあります。それは「落ち込んでいる」「眠れない」等だけではなく「頭痛」や「肩こり」といった身体疾患を主訴に受診される患者さんが多いためです。しかも、自殺者の約半数が自殺する1か月以内に医療機関を受診しているとの統計もあり、自殺者増加の防止や労働者はじめ精神的疾患で悩んでいる患者さんの苦痛をいち早く取り除いてあげるには、内科医等のプライマリ・ケアの現場で働く医師による適切な対応が望まれます。

今回のセミナーでは、そのような背景から始まり精神疾患患者を見出すポイントや、患者さんの

満足を上げるための対応、自殺させないための接し方、精神科医との連携方法、処方すべき薬と注意点などについて解説していただきました。実践的な説明に参加者の先生方からの質問が相次ぎ、質疑応答は30分超にもおよび午前のセミナーは12：30に終了となりました。



問診と身体診察を軽視しない！

午後からの「病態生理から迫る腹痛へのプライマリ・ケア的アプローチ」では問診により部位や時間経過を確認し、身体診察においてショック状態か？腹部刺激サインはあるか？腹部膨張があるか？これらを診ることで緊急に外科に送らなければいけない急性腹症が見分けられるとの説明をしていただきました。ところどころ米国の医療情報が盛り込まれたセミナーとなりました。

次回セミナーは6月19日、水戸協同病院総合診療科の徳田安春先生により「バイタルサインの実践的解釈とその応用」を錦糸町のすみだ産業会館で開催いたします。